

千葉県建築文化賞

第18回表彰作品集



2011年

主催：千葉県 共催：社団法人 千葉県建築士会

千葉県建築文化賞について



千葉県知事 森田 健作

平成23年度の千葉県建築文化賞に多くの皆様から御応募をいただき、誠にありがとうございました。

千葉県建築文化賞は、居住環境や建築文化に対する県民の意識を高め、潤いと安らぎに満ちた快適な街づくりを推進することを目的として平成6年度に創設されたものです。

第18回目となる今年度は、東日本大震災により本県においても多くの方々が被災された中で、例年を上回る108点の応募があり、千葉県建築文化賞選考委員会の厳正な審査により、建築文化賞6点及び建築文化奨励賞3点が選定されました。

受賞作品は、いずれも良好な景観形成や建築文化の向上につながるとともに、千葉の魅力を高め、地域の活性化にも貢献する素晴らしい作品です。これらの建築物が地域社会の中で親しまれ、より良いまちづくりの推進に貢献するものと期待しております。

さて、今年度は、総合計画「輝け!ちば元気プラン」の実施計画の総仕上げの年です。「暮らし満足度日本一」の千葉を目指し、千葉県建築文化賞表彰制度をはじめ、「がんばろう!千葉」キャンペーンなどの諸施策を通じ、次の世代に向けてより一層光り輝く千葉県を築いてまいりますので、県民の皆様の御理解と御協力をお願いいたします。

結びに、選考委員をはじめ、関係団体の方々の御協力に感謝を申し上げますとともに、受賞者並びに応募いただいた皆様の今後ますますの御活躍をお祈りしまして、あいさついたします。

平成24年3月

目 次

千葉県建築文化賞について	1	Villa99 I期	7
第18回千葉県建築文化賞選考経過と総評	2	千葉流古民家再生術	8
ホキ美術館	3	日本大学工学部船橋キャンパス 新サークル棟	9
幕張インターナショナルスクール	4	南房総の家	9
竹内医院	5	さんぶの森交流センター あららぎ館	10
いすみ市立岬中学校	6	千葉県建築文化賞の選考の基準	10

第18回千葉県建築文化賞選考経過と総評

応募108点から9点入賞

(選考経過)

千葉県建築文化賞選考委員会委員長 北原 理雄

第18回千葉県建築文化賞は平成23年6月の委員会で募集要領を定め、7月上旬から9月中旬まで応募を受け付け、総数108点の応募をいただいた。(部門別内訳は下表のとおり。)点数は昨年より37点増加した。東日本大震災では千葉県も大きな被害を受け、多くの方々が復旧に携わられているが、その多忙をおして建築文化向上のためにご協力いただいたことを深く感謝したい。

第1次選考はすべての応募用紙を一堂に展示し、その記載と写真をもとに2回の投票を行ったうえで、景観部門5点、ユニバーサルデザイン部門3点、環境部門3点を選んだ。次いで11月の3日間をかけ、現地を訪問し、建築物の説明を伺いながら詳細に調査した。第2次選考は12月開催の委員会で、現地調査の報告を踏まえて再度投票を行い、討議を重ねながら優秀な建築物を選んだ。

なお、今回も選考の公明性を保つため、委員と関係のある建築物が応募されている場合、そのことを確認したうえで、当該委員は討議に参加せず、票を投じないこととした。

その結果、建築文化賞6点、建築文化奨励賞3点を表彰候補作品として決定した。今回の表彰作品には比較的規模の小さな建築物が多く、住宅も3件含まれている。結果的に、規模の小さなものや住宅を積極的に評価したいという昨年度の宿題に応えることができた。

募集部門	選考過程	応募点数	現地調査 (第1次選考)	受賞作品選定(第2次選考)	
				建築文化賞	同 奨励賞
景観上優れた建築物		73	5	2	2
ユニバーサルデザインに配慮した建築物		15	3	1	1
環境に配慮した建築物		20	3	3	—
合計		108	11	6	3

(総 評)

景観上優れた建築物

景観部門への応募は73点で、昨年度を24点上回った。今回は教育・文化施設と住宅に佳作が多かった。また、街並みには4点の応募があったが、残念ながら授賞に至らなかった。

建築文化賞の「ホキ美術館」は、昭和の森公園に隣接する住宅地の一角に位置し、チューブ状のボックスが空中に跳ね出すダイナミックな形態をとりながら、スケールを抑え、周囲の環境と調和した快適な美術鑑賞の場をつくり出している点が高く評価された。

「幕張インターナショナルスクール」は木造平屋の学校であり、プライバシーを守りつつ景観への配慮を感じさせる外観、大小の空間を組み合わせる敷地や教室群を分節した配置計画、木造の伸びやかさを活かした屋内空間など、全体にきめ細かな配慮が行き届いている。

奨励賞の「日本大理工学部船橋キャンパス新サークル棟」は、ハイサイドライトを持つユニットを組み合わせる明るいシンプルな建物とし、近隣住宅地からの眺めにも配慮しており、「南房総の家」は、白いスラブと大きなガラス面で構成される端正な形態が、前面に広がる海の眺望に溶け込みつつ添景として際だっている。

ユニバーサルデザインに 配慮した建築物

この部門への応募は14点であり、昨年より7点多かった。福祉施設、商業施設、住宅などの応募もあったが、今回は診療所と集会所の授賞となった。

建築文化賞の「竹内医院」は、表通りと駐車場からの動線を分離し、両者にバリアフリーのアプローチを設けている。また、内部には明るい吹き抜けの回遊式廊下がめぐり、来院者に快適な分かりやすい環境を提供している点が高く評価された。

奨励賞の「山武の森交流センターあらざ館」は、市役所出張所を併設した複合コミュニティ施設であり、多人数が安心して快適に利用できるように配慮されている。

環境に配慮した建築物

この部門の応募は21点であり、昨年より6点多かった。今回は学校と住宅に見るべき作品が多く、その中から次の3点が建築文化賞となった。

「いすみ市立岬中学校」は、太陽熱集熱システム、連続スリット型トップライト、電動式ハイサイドライトなどにより、晴天率が高く、風光の安定した地域性を活かしたエコ・スクールを実現している点が高く評価された。

「Villa99 I期(OMOYA)」は、九十九里の農家を建て替えた住宅であり、庇・縁側・続間など、伝統的民家の空間要素を取り入れており、夏は浜風、冬は暖かな日差しを取り込み、冷暖房に頼らない快適な住まいを実現している。

「千葉流古民家再生術」は、重厚な柱・梁を活かし、居間と土間を南北に風の抜ける開放的な間取りとしつつ、プライベートな部分を大壁の現代的空間として、若い家族のライフスタイルに合わせた古民家再生を実現している。